

脳卒中患者の経管栄養プロトコールにおける栄養剤選択効果についての検討の調査のお知らせ

脳卒中を発症すると、意識状態や嚥下機能が障害されることにより経口からの食事が困難となります。そのため、鼻から胃までチューブを通して、そこから栄養剤を投与する必要があります。これを経管栄養といいます。この経管栄養を行うと、栄養剤の浸透圧や脂肪量、投与速度・量、絶食期間などが原因で下痢になりやすいことも知られています。脳卒中の集中治療を担う私達は、常日頃から患者さんの栄養状態の維持・向上のため、早期からの栄養管理に取り組んでいます。

この度、小倉記念病院のSCUでは、発症早期から栄養管理を行い消化しやすい栄養剤より開始する事で下痢の抑制効果や栄養状態向上を期待し、過去の診療録を振り返り調べることにしました。この調査により栄養開始時期と下痢、栄養状態向上の有無などを明らかにし、今後の脳卒中栄養プロトコールを検討するために役立てたいと思っております。

【研究の対象・期間・内容】

小倉記念病院において2017年7月から2018年3月までの間にSCUに緊急入院した患者さんのうち経管栄養での食事摂取を行っていた患者様45名を対象としています。調査対象期間内に入院した患者さんの診療録から、栄養開始時期、下痢の有無、栄養状態について情報を得、単純集計し分析します。

対象者となることを希望されない方は、下記連絡先へご連絡下さい。

【個人情報の管理について】

個人情報漏洩を防ぐため、個人を特定できる情報を削除し、データの数値化、データファイルの暗号化など厳格な対策をとり、第三者が個人情報を閲覧することができないようにしております。また、本研究の結果の公表(学会や論文等)の際には、個人が特定できる情報は一切含まれません。

【連絡・問い合わせ先】

小倉記念病院
SCU看護師 中西 優子
〒802-8555

北九州市小倉北区浅野三丁目2番1号

電話093-511-2000 (代)

